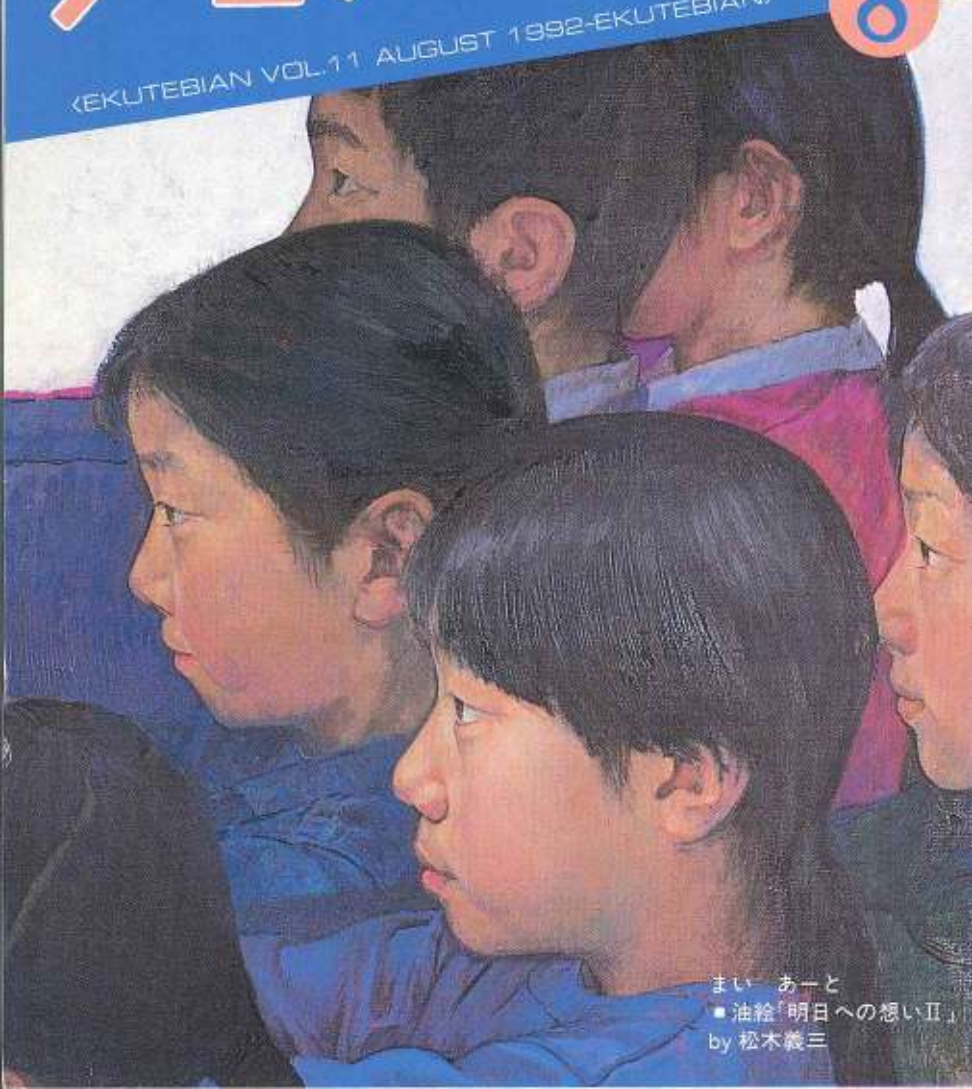
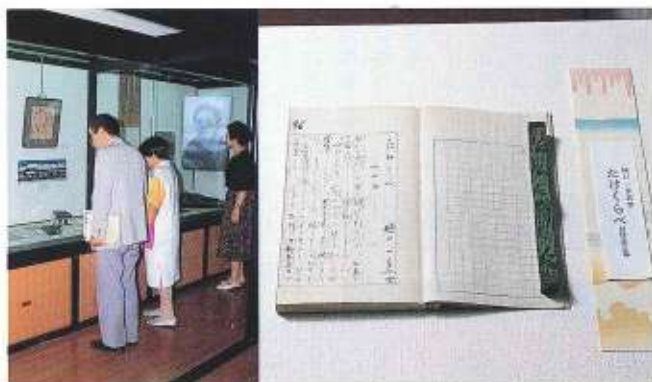
月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
8
〈EKUTEBIAN VOL.11 AUGUST 1992-EKUTEBIAN〉
まい　あーと
■油絵「明日への想いⅡ」
by 松木義三

日本庭園調で落ち着いた雰囲気の中にある無門庵ギャラリー

無門と一葉

若き日の野村清六は無門庵（錦町）に寄宿していたという。面倒見のいい主・小林無門は、新聞配達少年へ、また、不幸な未亡人に資金援助する財団を設立。自らの悲しさを全て暖かい優しさに変えていこうと一生懸命だった。樋口一葉の生原稿『たけくらべ』はこの温かさの中で眠っていた。一つの時代を終えて、新しく始まったのを見たかったのかもしれない。無門一代の誇りを今、日文さんがギャラリーとして花開かせたのも。

今、筆墨鮮やかによみがえる『たけくらべ』の肉筆原稿

展示作品の数々は、また様々な自分との出会いも展示されているのか。思い思いに観覧する訪問客。

立川からバルセロナへ！

オリンピックの日本代表選手に立川の地で生まれ育ったひときわ輝く星が出場する。男子バレーボール界の攻撃の要、泉川正幸君（西砂川町）である。チーム最年少にして、ジャンプ力とパワーはナンバーワン。立川七中のエースは今や世界のエース。立川人にとっての見どころは、尽きず、女子新体操界のエース・川本ゆかりさん（錦町）、カヌーの女王、小林弘子さん（立高OG）、も立川からバルセロナへ向かった。茶の間での観戦が一層楽しみである。

▲幼時からの相談相手 田中勝利さん　▲メキシコ五輪銀メダリスト 高橋（旧姓・宍倉）さん　▲小学校時代からの親友 松井 良さん　▲立川市体育協会会長 荻野芳廣さん　▲西砂体育会会長 大口泰邦さん

●みんなの夢をバッグに入れて

『地元西砂から初めての出場なので…』と、西砂体育会会長であり、今回「泉川君を励ます会」の会長を買って出た大口泰邦さんはそう嬉しそうに語った。この日、会場となった、泉川君の母校、西砂小学校の体育館は、大勢の声援と熱い視線の中に意気盛んであった。

立川市体育協会会長の荻野さんから立川市体育表彰状が泉川君に授与された後、次々に喜びの祝辞が飛び交った。小学校時代からの親友、松井良さんは、「バレーボールを始めた頃のあの時の気持ちを忘れないで、バルセロナ、いっぱい楽しんで来て下さい」と爽やかに語った。また、泉川君にバレーボールの世界を教えた、小学校時代の恩師、山際節子先生は、当日残念ながら出席できなかったので声のメッセージをカセットテープに吹き込んで送ってきたのだった。『バルセロナが全てではなく、そこから泉川くんの青春が始まるのよ。先生はオリンピックで勝つことよりも先生と一緒に始めたバレーボールを今でも続けてくれていることが嬉しいのよ』と温かいメッセージが会場に響いた。また、立川市在住のかつてのメキシコ五輪・銀メダリスト、女子バレーボールのエースアタッカーであった高橋（旧姓・宍倉）さんも応援に駆けつけた。

地元西砂体育関係の方々、一堂に駆けつけた同級生たち、中里地区の人たち、そして、小学校から高校までの恩師たち。会場は、みんなの歓びいっぱいで埋め尽されていた。

●頑張ってきます

泉川君は、最後に『みなさんの温かい声援に応える為に、まずは26日の対アメリカ戦で勝つように頑張ってきます』と述べた。

また、後日、砂川在住のソウル五輪女子体操選手の信田美帆さんは、泉川君の出場に向け、『オリンピックでは観戦の仕方も日本とは違い、圧倒されるかもしれないけれど、他の種目の人たちとも友達になれて、楽しく勉強になることも多いと思います。頑張って下さい。同じ立川市民として応援しています。』とメッセージを送った。

同級生の協力、地元の声援、大勢の恩師。その立川の人の輪は、世界の舞台でプレーができるようになった男を見守り続けることだろう。

▲地元中里地区の応援団

ことわざ問答㉙

漢字一字挿入せよ

盗人の□寝も当てがある

一斑を見て全□を知る

真如苑だより

炎天下、万物はげんなりとしているようで、今を盛りと育っております。子供たちも、夏休みの前と後では見違えるほどの成長を見せてくれます。

もしかすると、人のこころもまた、夏にはまだまだ育つのかも知れません。

真夏の真如苑へ、どうぞお出掛けください。

■日時　8月12日(水)　2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

立川トピックス

見えたぞ、カワセミ！

"空飛ぶ宝石"と言われているカワセミ。（連載ナイスショット今号参照）国営昭和記念公園で野生のカワセミを繁殖させる為に造成された栄巣用人工崖に初めて巣を作ったことはニュースになったが、この程、巣から30メートル離れた川の対岸に隠れて見ることのできるコーナーが設置された。6月28日の日曜日には千五百人が観察。それぞれに驚きの声をあげていた。カワセミはコバルトとオレンジ色の雌雄の2羽で、川下から現れて魚を口にくわえたり、キジと"にらめっこ"をしたり、観察者を喜ばせた。

夢は世界を奏で始めた

「あったかい音、息が伝わってくるような音を出していたい」と語るのは、この程、世界的演奏家になる為の登竜門として知られる"アジア・ユース・オーケストラ"の厳しいオーディションに日本人としてただ一人の合格を果たした神田めぐみさん（曙町）。しかも、音大生を相手に高校生の合格は日本では初めての快挙。夢は世界を奏で始めた。めぐみさんの専門はトロンボーン。"アジア・ユース・オーケストラ"団員百人の中では金管楽器部門での進出は日本から今回初めてになり、大きな期待がかかっている。

立川クイズ

立川駅北口に並ぶ三軒の映画館が八月末に閉館します。94年には新たに映画ビルとしてお目見得するそうですが、それまでの間、立川のシネマの灯はお休みというわけです。娯楽として根強い人気の映画ですが、では、ここ立川にはじめて常設の映画館ができたのはいつのことだったでしょうか。

①明治36年②大正14年③昭和21年

【7月号の答】❷

江戸時代、立川（当時は柴崎村）は幕府直轄の天領、旗本領、普済寺領の三つに分かれておりました。

太政奉還後、それぞれに変遷を重ね明治4年、ようやく韮山県にまとまりますが、同年11月には入間県となり、そのわずか二週間ほど後には神奈川県に。誕生間もない明治政府の試行錯誤の様子が伺える"立川史"のひとコマです。

表紙は語る

まい・あーと　油絵「明日への想いⅡ」by 松木義三

「ますます子供が精神の自由さを失う状況でやっぱり生きる子供はそれを乗り越えて行って欲しい。単に明るくて可愛い子ではなくて生きる意志とか勇気とかそういうものを絵に塗り込められれば」と語る松木義三さんは、小学校の美術の先生。子供たちの現場に立つ眼差しが絵の向こう側に写っているようだ。

5月にルミネで行われた第八回多摩総合美術展で特賞を受賞。多摩秀作美術展準大賞、パルテノン多摩大賞等、数々の賞を受賞。個展も銀座の画廊で度々開催。子供を描くようになったのは、子供には生命感があって、明日に向かって生きている可能性がある。大人に明るさをもたらしてくれるからだという。自我が芽生えてきて大人たちと関わってきた表情が見える。今年は秋から冬にかけて銀座の櫟画廊にて個展を予定。現実に松木ワールドの本物の前に立つ時自分の明日への想いが見えて勇気付けられることだろう。

東風

環境問題と云えば、泣く子も黙る昨今である。身近なところでは、ゴミ問題が文字どおり「山」と積まれていて、各地でシンポジウムなどが盛ん▼近頃「公害」という言葉をあまりきかなくなった。なんだか一時代前の埃をかぶった言葉のように響くのであろうか。してみると「環境問題」も怪しいものである。いつか古びて忘れられる日が来たらコトである。時代に迎えられる言葉を、次から次へと誰が考案するのであろうか▼先頃、創刊された『TAMAらいふ21』に、われらが三田鶴吉さんが登場。多摩川への熱い思いを込めたメッセージが話題となっている。表紙も6月7日に行われたクリーン多摩川の当日の写真。三田さん登場の話がでた時に、取材を誰がするかという段で当工房が真っ先に挙手した。一面識もない記者が杓子定規な質問をして、タテマエだけの記事を書かれたんじゃあ、三田さんのお気持にそぐわないと思ったからである▼三田さんの、多摩川への思いは遠く25年前に溯る。クリーン多摩川の運動は実に50回を数える。昨日今日の人が、環境問題ですか、さいでございますかというのとはケタが違う。『TAMAらいふ21』の広報誌は創刊号で最高の方のご登場となったことが嬉しい。天網恢恢疎にして漏らさず、ここは確かに誇るに足る街である▼朝顔や　つるべなき世の　えくてびあん●

ことわざ問答 答

盗人（ぬすびと）の昼寝も当てがある

盗人がのほほんと昼寝をしているのは、深夜、活躍するため"人の行動には、思惑があるもの

一斑（いっぱん）を見て全豹（ぜんぴょう）を知る

斑は豹の皮のまだら模様。ものの一部分を見て、全体像を推測する。蛇首をみて長短を知る。

（編集）小川知子　鶴川 理　中村裕里　原田悦子　半沢正弘　町田健一　山田恵子
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治　スタジオ269　桂川一巳　本多 修

月刊えくてびあん　第97号
平成四年八月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37 磐城ビル3F　〒190 303
電話　〇四二五（28）〇〇八二
FAX　〇四二五（28）一二九七
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

高田二三夫さん
（柴崎町3丁目）
愛機→ニコンF3
■カワセミ

私の傑作選 NO.13 NICE SHOT!

誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れた／と思った。シャッターが軽い。

岡崎芳雄さん
（高松町3丁目）
愛機→ニコンF501
■初めての自転車乗り